

「福島原発事故後の政治参加・ 選挙に関する世論調査」報告書

2014年10月

研究代表 松谷満（中京大学）

1. 調査の概要

この調査は、福島原発事故後において、(1) 福島市民の生活、社会、政治に関する意識には、どのような特徴があるのか、(2) 選挙における市民の選択には、どのような背景があるのかを明らかにすることを目的としています。そして、その結果を市民、学者、マスコミ、行政、政治家等に広く公表し、さまざまな政治的課題をともに考え、解決へと導いていくための資料とさせていただきたいと考えています。そのような思いで調査を企画いたしました。

この調査を実施するにあたり、主に政治に関する質問について他地域で実施された世論調査との比較も試みることにしました。2013年11月実施の全国政治意識調査（早稲田大 田辺俊介他）、2014年1月実施のいわき市民意識調査（いわき明星大 高木竜輔他）と共通する質問を設け、福島市民の皆様方のお考えや行動の特徴をより明確にできるような内容としました。

この調査では、福島市民 **3,510名**の皆様にご協力をお願いしました。法律にもとづいて**福島市選挙管理委員会の許可をいただき、選挙人名簿を閲覧いたしました**（選挙人名簿には皆様のご氏名、ご住所、性別、生年月日が記載されております）。この名簿のなかから、くじ引きのような方法で約2%の方を調査対象者として選ばせていただきました。なお、対象とした方の年齢は20歳から69歳までとしました。

調査の用紙は2014年3月に郵便でお送りいたしました。最終的に**1,354名**の方々にご回答いただくことができました（回答率38.7%）。ご協力いただきましたこと、あらためて感謝申し上げます。

この報告書では、以下、(1) 原発事故に関する意識と行動、(2) 事故後の取り組みについての意見 (3) 政治・社会に関する意識 (4) 選挙という観点から、調査の結果をお示しします。結果の要旨は以下の通りです。

- 原発事故の影響は、市民の生活や意識にいまなお強く残っています。
- 市民は放射能の正確な情報、除染、健康管理をとくに望んでおり、市が国に対して強く主張をしてほしいと考えています。
- 市民は政治全般や政権に対する不信感、無力感を強く感じています。それ以上に、他人に対する信頼感の低下がはっきりと表れています。
- 市長選での現職落選は、女性、高齢層、非大卒層の投票行動が大きく影響しました。
- 参院選では、原発・環境をめぐる争点が投票行動に影響し、経済や雇いを重視する人は自民党により多く投票しました。

2. 原発事故に関する意識と行動について

原発事故は市民の生活に大きな影響を与えました。具体的な行動の変化としては図1のようなものがあります。福島調査によると、現在でも「地元産の食材」「洗濯物の外干し」に多少なりとも気を遣う人は27～28%です。そして、半数以上の方が、事故後、何かと出費が増え、経済的負担を感じています。回答者のなかで、避難を経験したのは18%、現在も保養に出かけることがあるのは39%でした。

その影響は、小学生以下の子どもがいる世帯でより大きくなっています。「地元産の食材」「洗濯物の外干し」に気を遣うのは40～42%、経済的負担を感じるのは約7割、避難を経験したのは36%、現在も保養に出かけることがあるのは45%という結果でした。

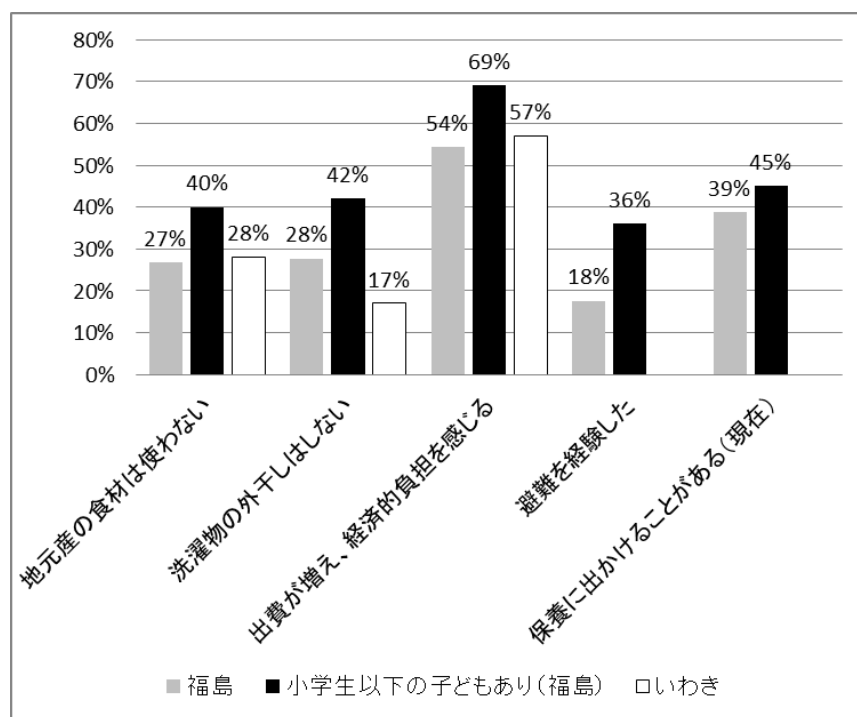


図1 事故後の生活への影響

原発事故によって生じた健康不安もいまだ解消されているとはいえません(図2)。「できることなら避難したい」と考えているのは26%、小学生以下の子どもがいる場合、43%です。健康影響に不安を感じているのは45%、小学生以下の子どもがいる場合、63%です。「どちらかといえばあてはまる」という回答も含めた割合ですが、とくに子どもの健康についての不安が今なお強いことがわかります。くわえて、約半数の方が、将来、身体や心の影響に少なからず影響があるのではないかと考えているという結果でした。

これだけ多くの方々が不安を抱えているのですから、国や自治体、東電はその解消に今以上に力を尽くさなければならないことは言うまでもないでしょう。

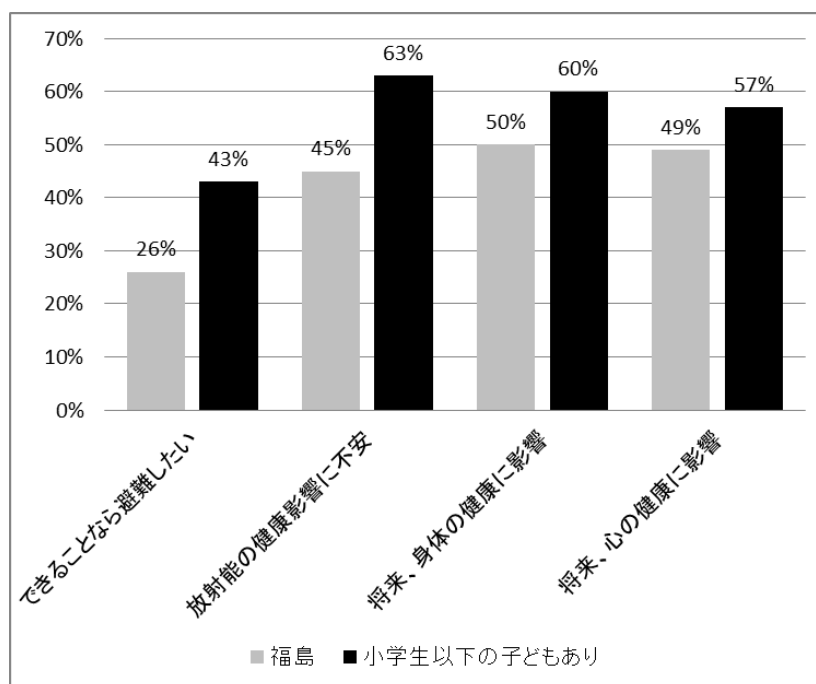


図 2 健康不安

また、原発事故は健康不安以外にも多くの問題を生じさせました(図3)。

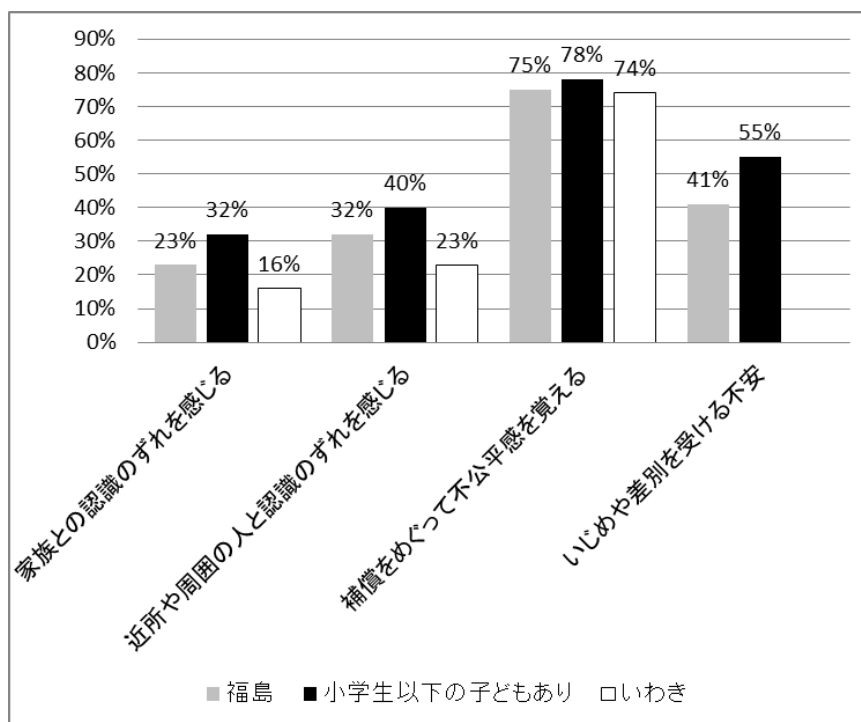


図 3 さまざまな問題

放射能に関して家族や近隣の人々と認識のズレを感じる人が 2～4 割ほどです。原発事故は人々のあいだに無用な分断をもたらしました。また、7 割以上の方が補償について不公平感を覚えています。先の経済的負担感とあわせて深刻な問題といえます。さらに、いじめや差別を受けるのではないかとの不安も生じています。とくに小学生以下の子どもがいる場合、半数以上の方が多少なりともそのように感じています。この結果から、健康不安以外にも、相互理解の促進、不公平感の解消、いじめ・差別不安の解消といった重い課題があることがわかります。

3. 事故後の取り組みについての意見

国、自治体、東電の事故後の取り組みについて市民の意見はどのようなものでしょうか。また、今後の取り組みについてはどのような意見が多いのでしょうか。

まず、事故後の取り組みについてですが、きわめて厳しい評価がなされているといえます（図 4）。東電を評価（ある程度も含め）するという回答は 13%、国（政府）は 19%にとどまります。市や県は、それよりはまだ評価されており、それぞれ 33%となっています。いずれにせよ、大多数の人は否定的な評価をしているということになります。

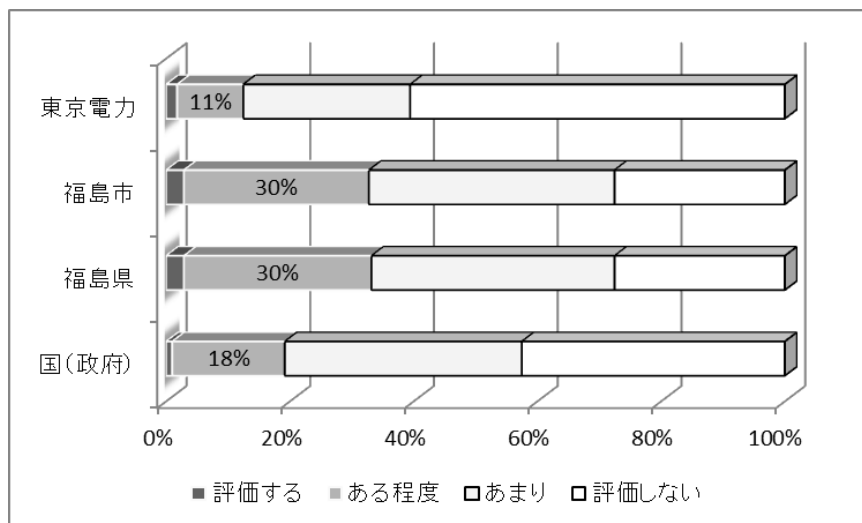


図 4 事故後の取り組みに対する評価

今後とくに力を入れるべき課題を 3 つまで選んでいただいたところ、図 5 のような結果になりました。もっとも多かったのが「正確な情報の発信」、次いで「市民の健康管理」「除染の実施」です。なお、男性で「風評被害への対応」「産業振興と雇用創出」を選択する割合が高く、女性で「正確な情報の発信」「市民の健康管理」を選択する割合が高い傾向もみられました。

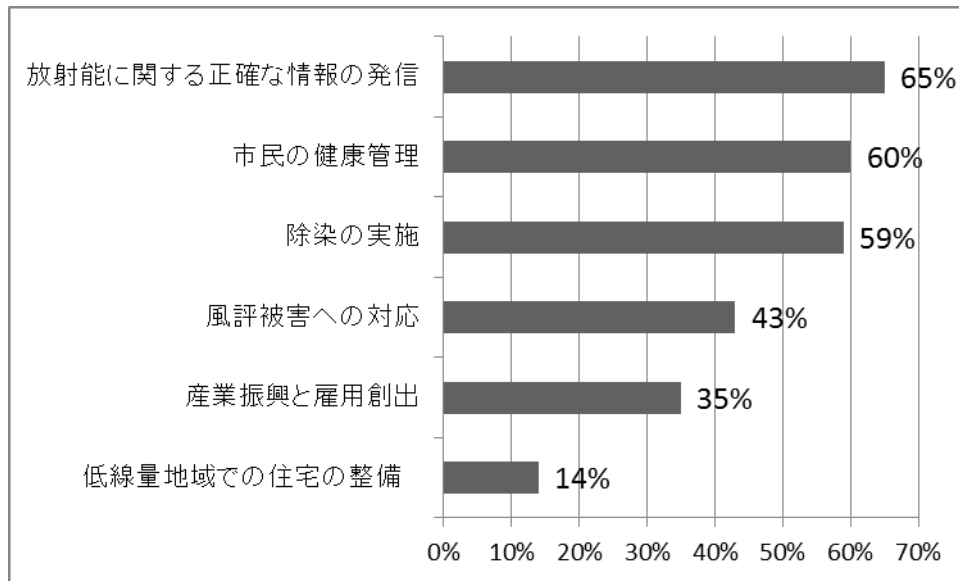


図 5 今後とくに力を入れるべき課題（3つ選択）

さまざまな課題について、どちらがより望ましいかという質問もさせていただきました（図 6）。

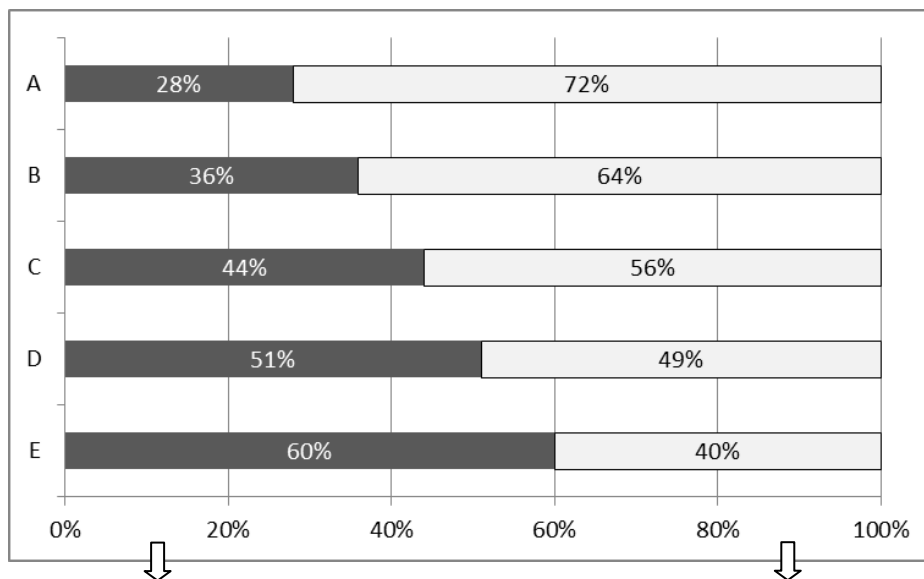


図 6 どちらが望ましいか

A	原発事故後の対応について、市は <u>国と協調的な姿勢</u> で要求すべき	〃市は <u>国との対決</u> も辞さない強い姿勢で要求すべき
B	福島の最優先課題は、 <u>地域振興や風評対策</u> など、景気回復や経済活性化に努めることだ	〃 <u>除染や健康管理</u> など、安心して生活できる環境をつくることだ
C	原発事故後の対応については、 <u>指導者や専門家</u> にまかせるべき	〃 <u>指導者や専門家</u> よりも <u>市民の意見</u> を重視すべき
D	環境がある程度悪化しても、 <u>経済成長と雇用の創出</u> が最優先されるべき	たとえ経済成長率が低下して失業がある程度増えても、 <u>環境保護</u> が優先されるべき
E	食品中の残量放射能については、 <u>政府や専門家</u> の定めた基準値を参照すべき	〃 <u>絶対的な基準値</u> はないので <u>市民</u> が判断すべき

もっとも意見が一方に偏ったのが A の質問です。7 割以上の方が、「市は国との対決も辞さない強い姿勢で要求すべき」と考えています。B の質問では、「地域振興や風評対策」が 36%、「除染や健康管理」が 64%という結果でした。事故後の対応を指導者や専門家にまかせるべきか、それとも市民の意見を重視すべきか (C) については、「市民の意見重視」がやや多いものの、意見が拮抗しています。「経済成長と雇用の創出」を重視すべきか、それとも「環境保護」を重視すべきか (D) については、かなり意見が拮抗しています。C と D のような争点は、市民のあいだでも意見がまとまりにくいものであることがうかがえます。E の質問、食品の残量放射能の基準値については、「政府や専門家の定めた基準値を参照すべき」が 6 割となりました。

4. 政治・社会に関する意識

事故後の取り組みに対する評価 (図 4) からもうかがえるとおり、国 (政府) などに対する評価はきわめて厳しいものがあります。このことから福島市民は他地域と比較して政治全般に不信感を強めているのではないかと考えられます。この点を全国調査、いわき調査と比較してみました。

調査では、政党、政治家、団体などについて-3 から+3 までの 7 段階で好感度を答えていただきました。そのうち、「自民党」「安倍晋三首相」「脱原発を主張する市民団体」「佐藤雄平知事」の好感度について図 7 に示しています。図では- (-1~-3)、0、+ (+1~+3) にまとめています。

「自民党」「安倍晋三首相」については、全国調査と比較して福島調査、いわき調査ともマイナスの割合が高くなっています。とくに福島調査で「安倍晋三首相」に対するマイナスの割合が高いのが目立ちます。一方で、「脱原発団体」については、全国調査と比較して福島、いわきともにプラスの割合が高くなっています。これらの結果から、福島の人々は他地域の人々と比べて、現在の政権に否定的であり、それは原発事故の影響によるものだと考えられます。なお、佐藤知事の好感度はいわきよりも福島でマイナスの割合が高いという結果になっていました。

個別の政党・政治家ではなく、政治不信 (「国民の声が政治に反映されていない」)、無力感 (「市民には政府を左右する力はない」) についてもたずねました (図 8)。政治不信、無力感ともに、全国的な傾向として強いといえますが、福島・いわきの人々はより強く不信感、無力感を感じているといえます。この違いもやはり、原発事故の影響といえるでしょう。

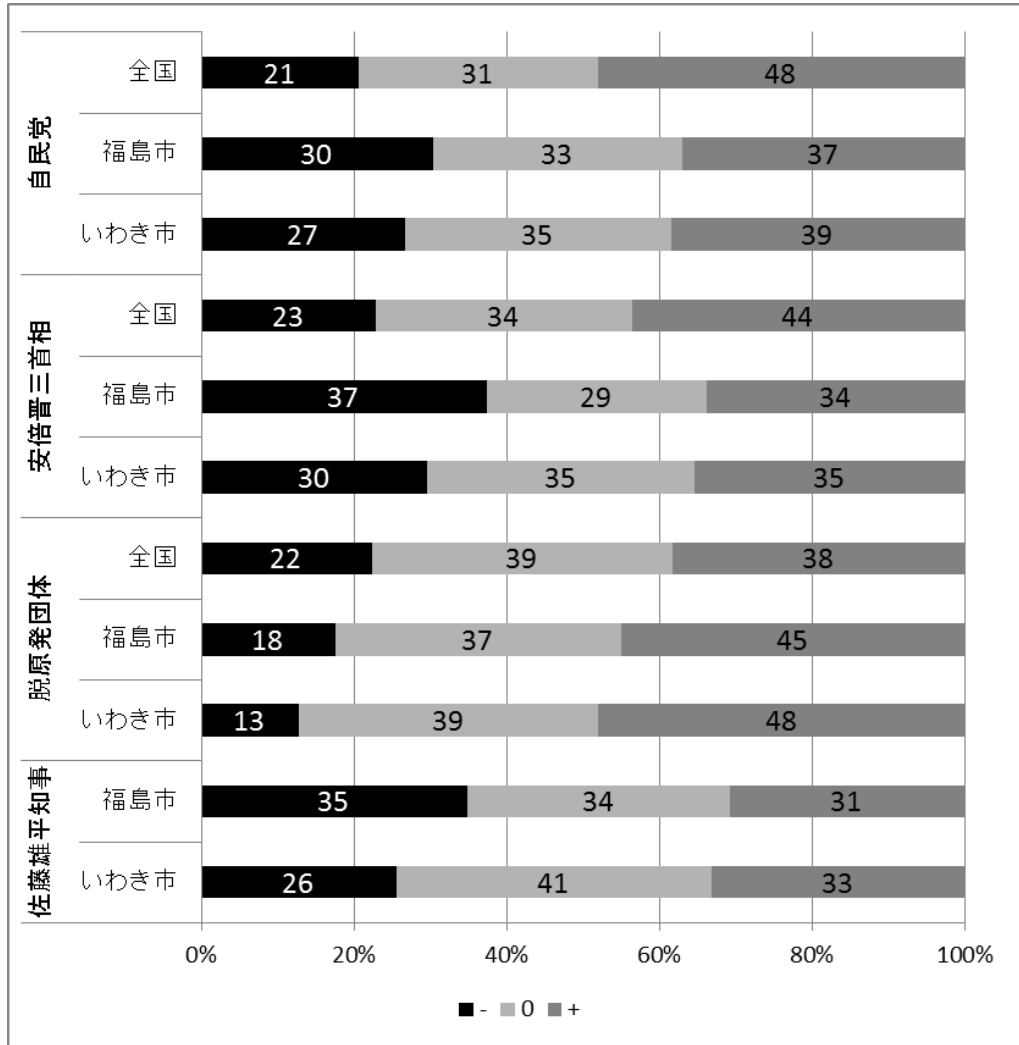


図 7 政党・政治家・団体の好感度

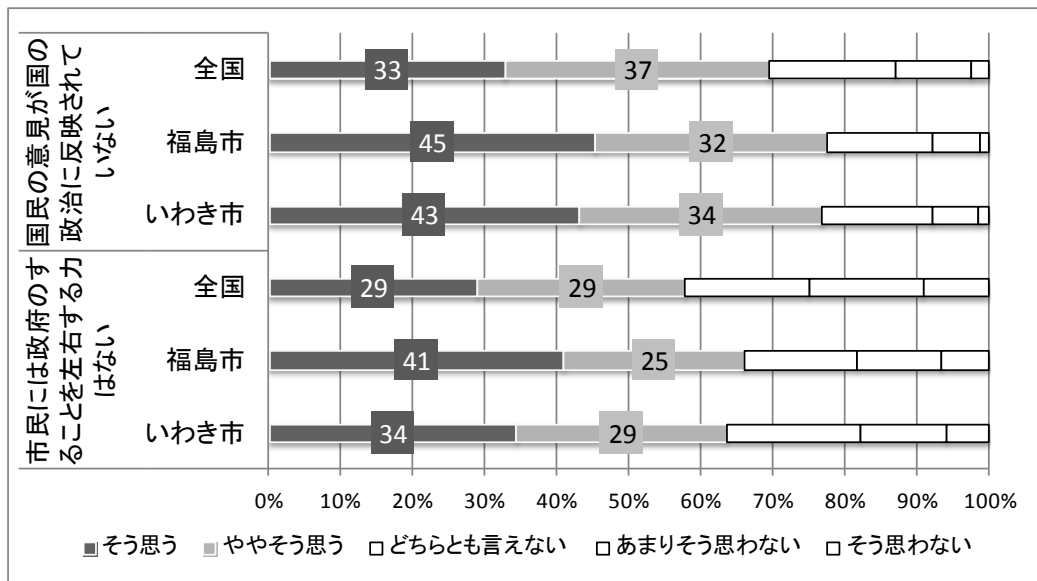


図 8 政治不信・無力感

一方、さまざまな組織などに対する信頼感についての質問は、別の全国調査（日本版総合的社会調査 JGSS：大阪商業大学）と共通のものを用いました。「国会議員」「市会議員」に対する信頼は全国調査よりも高く、「新聞」「テレビ」「学者・研究者」に対する信頼は全国調査よりやや低いという結果になりました（表は省略）。個々の議員に対しては、まだしも一定の期待があるようにうかがえます。

調査ではさらに、他の人々への一般的な信頼感についてもたずねました（図 9）。この結果は、全国調査と大きな違いが出ました。全国調査では 6 割が肯定的な回答（「そう思う」「ややそう思う」）であるのに対し、福島調査では半分以下の 26%にとどまっています。そのかわりに、「どちらとも言えない」という中間的な回答が 45%、否定的な回答が 3 割近くになっています。

先に確認した、事故への対応をめぐる認識のずれ、補償の不公平感、いじめ・差別不安などが、他人に対する信頼感の低下をもたらしていると考えられます。全国調査との違いの大きさからみても事故の影響の大きさを表す結果です。この信頼感の低下は、今後さらに深刻な事態を招くかもしれず、その回復の方策をさぐることも重要な課題といえます。

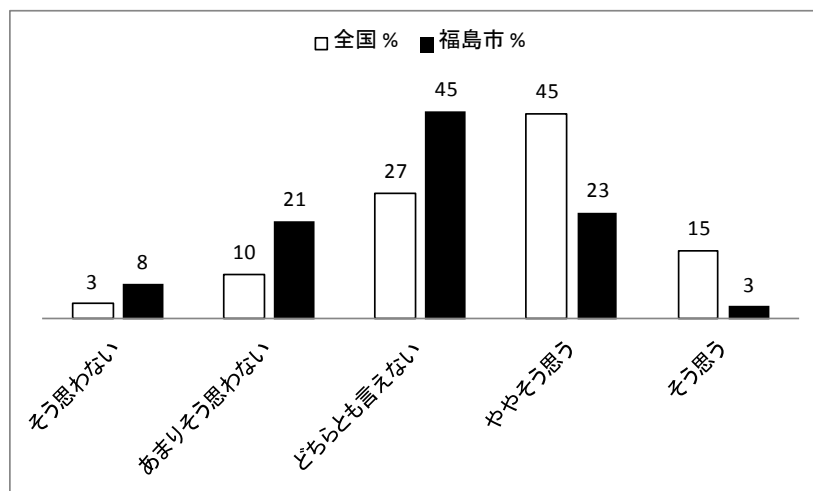


図 9 一般的信頼

調査では、今後の原発のありかたについても質問しました。やはり、全国調査と福島調査とで大きな開きがみられます（図 10）。長期的にか即時にかの時期を問わず「廃止」という意見を「脱原発」の立場とするならば、全国調査では 55%が「脱原発」派でした。一方、福島調査では 69%が「脱原発」派でした。なお、年齢の高い人のほうが若い人よりも「脱原発」派が多いという結果が、世論調査でたびたび示されています。今回の福島調

査でも、20代で「原発維持」派が多く、60代で少ないという傾向がみられました。ちなみに、福島調査のみに特徴的な傾向として、60代で安倍首相の好感度が低く、20代で高いこともわかりました（図12）。福島では原発に対する意見と首相・政権への評価とが連動しているものと考えられます。

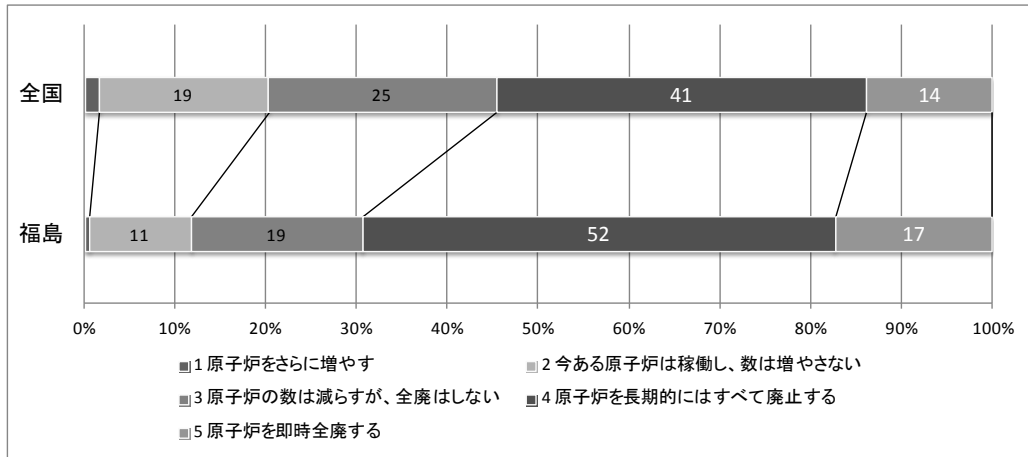


図10 日本の原子力政策について

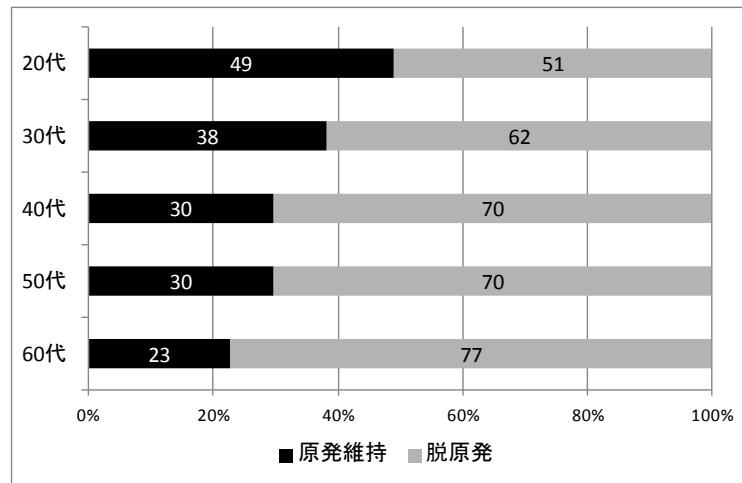


図11 日本の原子力政策について（年齢別）

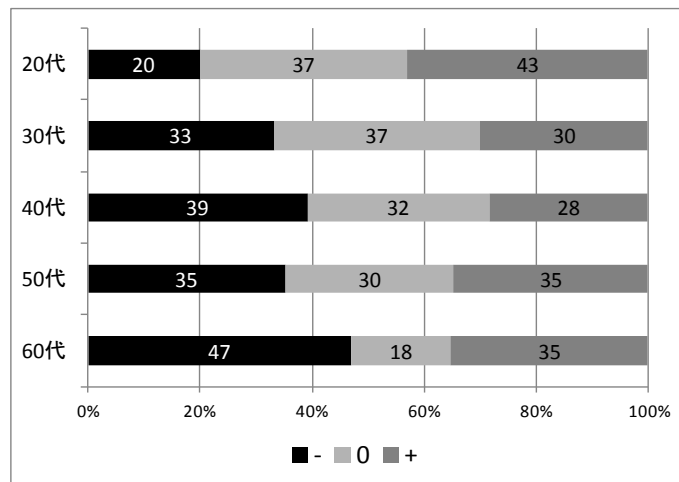


図12 安倍首相の好感度（年齢別）

5. 選挙

最後に、選挙における市民の選択の背景について分析の結果をお示しします。2013年の福島市長選では、前回2009年とくらべて投票率は10%ポイントほど上昇し、現職の瀬戸氏が前回の半分弱の得票で敗れました。かわりに、新人の小林氏が72,441票を得て当選を果たしました。

では、小林氏に投票した人びとの特徴はどのようなものでしょうか。図13は、年齢・性別・学歴（中高卒＝初中等、短大・大卒＝高等）別の投票行動の結果です。20-30代が多く棄権する傾向にあるのは、これまでの選挙とあまり変わりありません。とくに目立つのは、60代の高学歴男性以外の人々が小林氏に圧倒的に多く投票していることです。一般的に、年齢の高い人々は「変化」をあまり好まず、現状維持の投票をする傾向にありますが、この市長選挙ではまったく違った形になっていたようです。40-50代の現役世代でも、60代ほどはつきりとした傾向ではありませんが、高学歴男性で瀬戸氏への投票が多めであり、初中等男性と高学歴女性で小林氏への投票が多くなっています。初中等女性では棄権率が高くなっています。

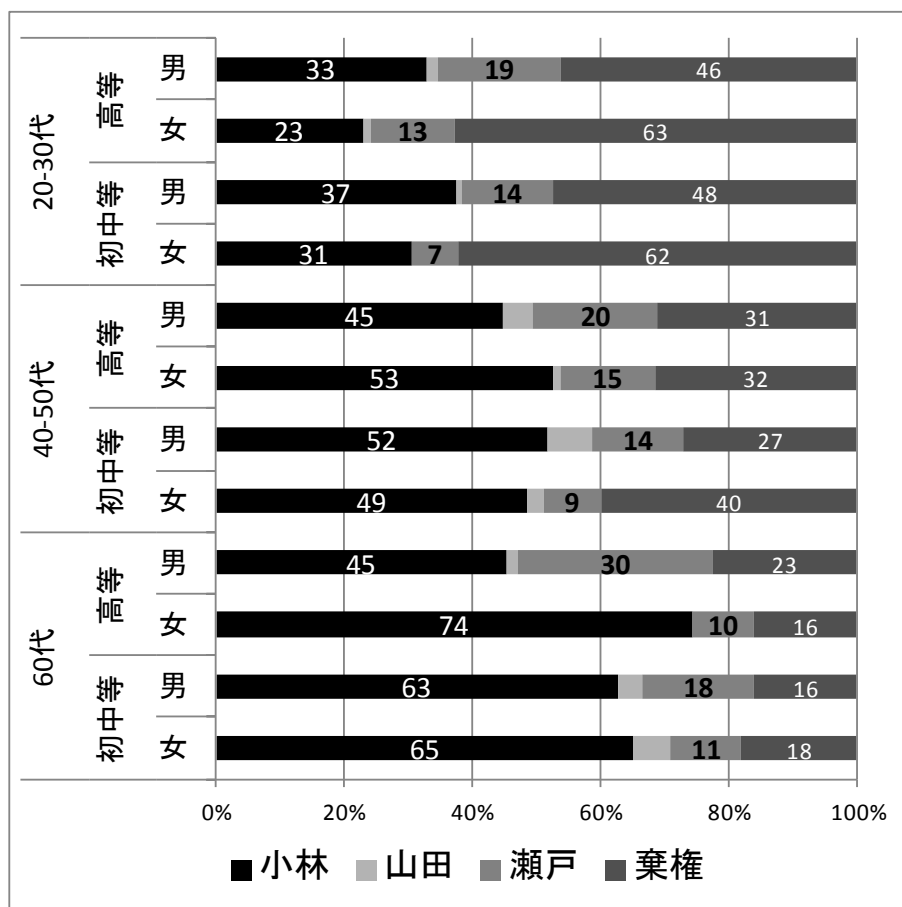


図13 年齢・性別・学歴と市長選投票行動

この結果からすると、福島市長選での現職落選は、女性、高齢層、非大卒層の投票行動が大きく影響したと考えられます。ここからは推測の域を出ませんが、社会の中心をになうエリート層とは違って、政治になかなか声が届きにくい人びとが、自分たちの声もっと聞いてほしいという思いで行動を起こした、という背景があったのかもしれない。

また、原発に対する意見との関連では、「脱原発」を支持する人で小林氏への投票が多く、「原発維持」を支持する人で棄権が多いという傾向がみられました（図 14）。市の事故後の取り組みを評価する人のほうが瀬戸氏への投票が多く、評価しない人で小林氏への投票が多いという傾向もみられました（図 15）。

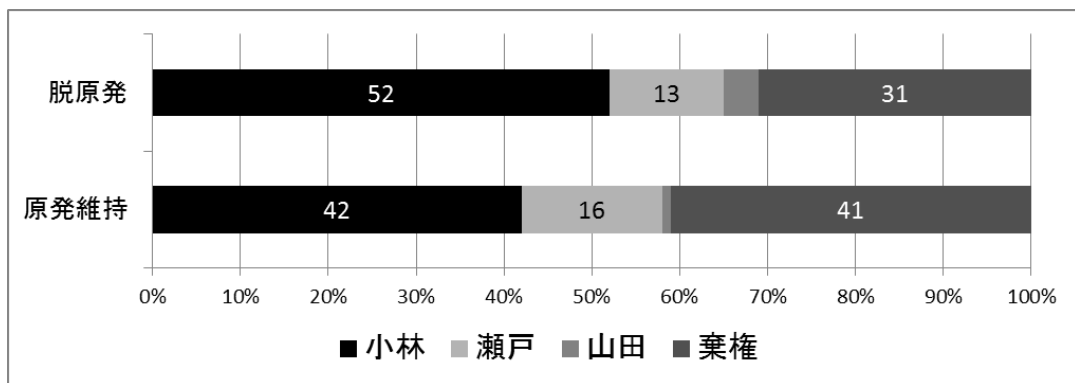


図 14 原発に対する意見と市長選投票行動

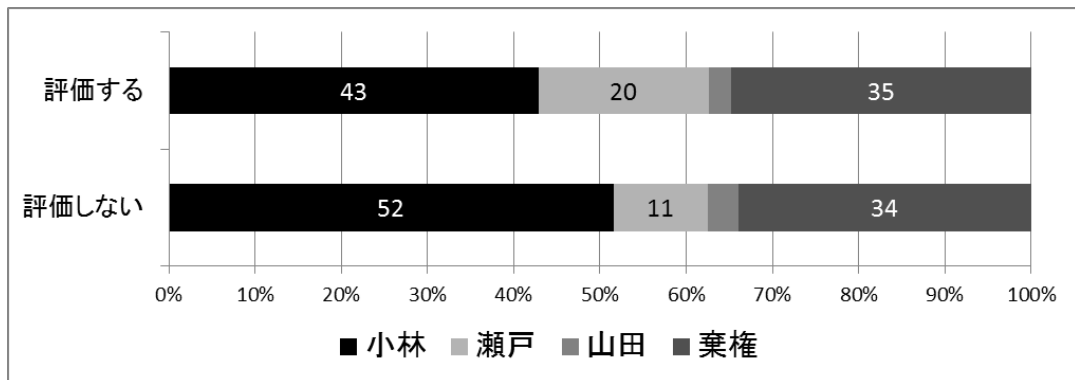


図 15 市の事故後の取り組みに対する評価と市長選投票行動

では、それよりも前に行われた参議院選挙での市民の選択はどのようなものだったのでしょうか。福島県全体でみるならば、全国との違いはあまりみられません。比例区に関して、しいていえば民主党の得票率（棄権者も含めた絶対得票率）がやや高いくらいで、自民党の得票率はほぼ同じです。この選挙では、原発事故は市民の投票行動に影響しなかったのでしょうか。

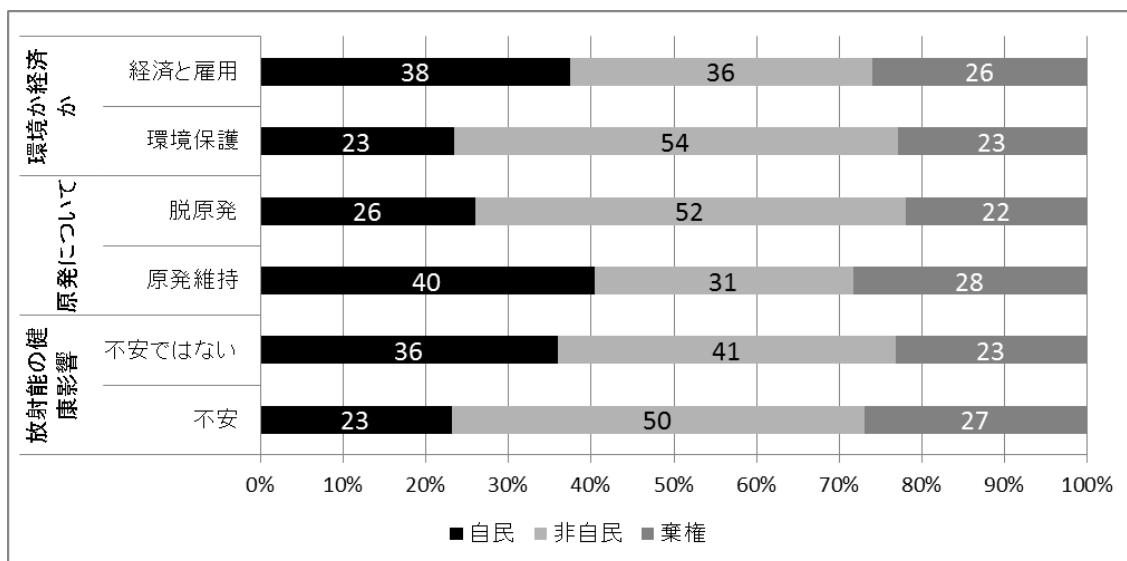


図 16 環境・原発に対する意識と参院選（比例区）の投票行動

環境・原発に対する意識と参院選の投票行動をみると、市民の選択はこれらの意識にかなり関連していることがわかります（図 16）。環境を重視し、脱原発を支持し、放射能の健康影響に不安である場合、非自民の政党に多く投票しています。逆に、経済と雇用を重視し、原発維持を支持し、放射能の健康影響が不安でない場合、自民党に多く投票しています。全国的には「原発」は争点にならなかった、といった指摘がされていましたが、福島市民のなかでは、「原発」は明確な争点となっていたということがわかります。むしろ、これらの争点が市民の世論を二分するものであったために、自民党とその他の政党へと票が分散する結果になったようです。

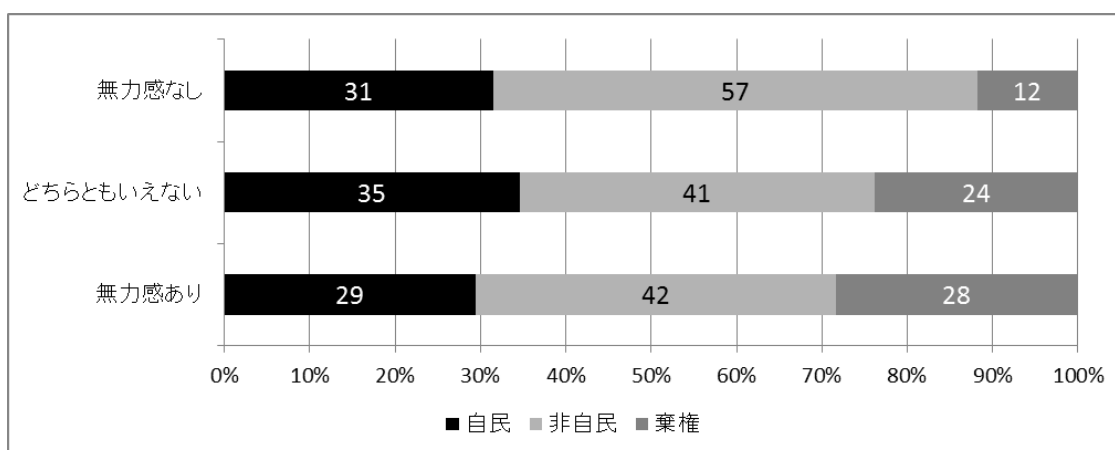


図 17 政治への無力感と参院選（比例区）の投票行動

また、原発事故は政治への無力感を強めました（図 8）、それによって投票を棄権する人も増加したといえます（図 17）。さまざまな不満はあるものの、政治全般に失望し、参加意欲を失ってしまった人もいます。

6. 調査回答の単純集計

・数値はパーセントを表しています。一部、平均値で表しているものもあります。

問1 あなたの年齢を教えてください。

平均 49.7 歳

問2 あなたの性別を教えてください。

1. 男 (46.8%) 2. 女 (53.2%)

問3 あなたが現在、実際にお住まいの地域を教えてください(番地や部屋番号は記入いただく必要はありません。例：渡利、森合など。福島市以外にお住まいの方は市町村名を記入ください)。

省略

問4 現在のお住まいは次のうちどれにあたりますか。

1. 一戸建て(持ち家) (75.2%) 4. アパート・マンションなどの集合住宅(持ち家) (2.8%)
2. 一戸建て(借家) (4.8%) 5. アパート・マンションなどの集合住宅(賃貸) (15.2%)
3. 社宅・公務員住宅等の給与住宅 (1.6%) 6. その他 (0.4%)

問5 現在のお住まいに住みはじめてから何年くらい(延べ年数)経ちますか。

平均 20.5 年

問6 原発事故直前(2011年3月上旬)にお住まいだった市町村はどちらですか。

1. 福島市 (93.7%) 2. 福島市以外 (6.3%)

問7 2013年(平成25年)11月17日に行われた福島市長選挙において、あなたはどの候補者に投票しましたか。

1. 小林香(無) (47.7%) 4. 白票を投じた (1.4%)
2. 瀬戸孝則(無：自・公・社推薦) (13.5%) 5. 投票に行かなかった (33.4%)
3. 山田裕(共) (3.1%) 6. 選挙権がなかった (0.5%)

7-1 【福島市長選挙で投票した方のみお答えください】市長選挙で誰に投票するかを決める際、もっとも重視したことは何ですか。もっともあてはまる番号1つに○をつけてください。

1. 政党の推薦・支持 (6.2%) 3. 候補者の人柄 (12.5%) 5. 前市長の実績評価 (40.6%)
2. 候補者の政策 (21.4%) 4. 投票依頼 (6.1%) 6. その他 (13.2%)

問8 2009年(平成21年)11月8日に行われた前回の福島市長選挙において、あなたはどの候補者に投票しましたか。

- | | | | |
|--------------|---------|------------------|---------|
| 1. 瀬戸孝則(無) | (45.7%) | 4. 選挙権がなかった | (8.9%) |
| 2. 山田裕(共) | (5.6%) | 5. どの候補に投票したか忘れた | (11.1%) |
| 3. 投票に行かなかった | (28.4%) | | |

問9 2013年(平成25年)7月21日に行われた参議院選挙において、選挙区では、どの候補に投票しましたか。

- | | | | |
|--------------|---------|------------------|---------|
| 1. 森まさこ(自) | (32.0%) | 6. 白票を投じた | (2.8%) |
| 2. かねこ恵美(民) | (18.9%) | 7. 投票に行かなかった | (23.7%) |
| 3. いわぶち友(共) | (5.2%) | 8. 選挙権がなかった | (1.4%) |
| 4. えんどう陽子(社) | (1.3%) | 9. どの候補に投票したか忘れた | (10.2%) |
| 5. その他の候補 | (4.6%) | | |

問10 2013年(平成25年)7月21日に行われた参議院選挙において、比例区では、どの政党に投票しましたか。

- | | | | |
|-----------|---------|-------------------|---------|
| 1. 自民党 | (26.8%) | 8. 生活の党 | (1.5%) |
| 2. 民主党 | (12.7%) | 9. みどりの風 | (0.6%) |
| 3. 公明党 | (3.8%) | 10. その他の政党 | (0.5%) |
| 4. 共産党 | (6.0%) | 11. 白票を投じた | (2.8%) |
| 5. みんなの党 | (6.3%) | 12. 投票に行かなかった | (21.9%) |
| 6. 日本維新の会 | (6.5%) | 13. 選挙権がなかった | (1.3%) |
| 7. 社民党 | (2.3%) | 14. どの政党に投票したか忘れた | (7.2%) |

問11 選挙のことは別にして、ふだんあなたはどの政党を支持していますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | | |
|----------|---------|--------------|---------|
| 1. 自民党 | (24.9%) | 6. 日本維新の会 | (2.6%) |
| 2. 民主党 | (9.3%) | 7. 社民党 | (1.3%) |
| 3. 公明党 | (2.0%) | 8. その他の政党 | (0.6%) |
| 4. 共産党 | (3.4%) | 9. 支持する政党はない | (53.9%) |
| 5. みんなの党 | (1.5%) | | |

問 12 次にあげる政党、政治家や団体をあなたは好きですか、嫌いですか。それぞれについて、あなたの好感度を表わす数字（最も好きの「+3」から最も嫌いの「-3」まで）に○をつけてください。（平均値）

自民党（-0.1 点） 民主党（-0.6 点） 安倍晋三首相（-0.3 点）
 佐藤雄平県知事（-0.2 点） 小林香市長（+0.2 点） 脱原発を主張する市民団体（+0.5 点）

問 13 次にあげる政治に関する意見について、あなたはどのように思いますか。

	そう思う	やや そう思う	どちらともい えない	あまりそう思 わない	そう 思わない
自分のようなふつ々の市民には 政府 のすることを左右する力はない	(40.9%)	(25.1%)	(15.8%)	(11.7%)	(6.6%)
国民の意見や希望は、 国の政治 にほとんど反映されていない	(45.4%)	(32.2%)	(14.6%)	(6.4%)	(1.4%)
どの党が 政権 を担っても大きな違いはない	(34.6%)	(27.6%)	(14.5%)	(13.4%)	(9.9%)
自分のようなふつ々の市民には 県や市 のすることを左右する力はない	(28.8%)	(26.3%)	(20.9%)	(16.2%)	(7.9%)
市民の意見や希望は、 県政や市政 にほとんど反映されていない	(25.3%)	(33.1%)	(25.2%)	(14.4%)	(2.0%)
誰が 知事や市長 を務めても大きな違いはない	(24.6%)	(24.0%)	(18.8%)	(20.5%)	(12.1%)
ほとんどの政治家は、自分の得になることだけを考えて政治にかかわっている	(35.3%)	(30.2%)	(24.1%)	(8.3%)	(2.1%)
市民が直接、政治に参加する機会をたくさん増やすべきだ	(37.1%)	(31.1%)	(25.8%)	(4.0%)	(1.9%)

問 14 あなたは次にあげるものをどの程度信頼していますか。

	とても 信頼している	少しは 信頼している	ほとんど 信頼していない	わからない
政府	(1.8%)	(38.7%)	(46.3%)	(13.2%)
国会議員	(0.7%)	(30.1%)	(56.1%)	(13.1%)
福島県庁	(4.4%)	(53.5%)	(27.0%)	(15.1%)
福島市役所	(5.7%)	(56.5%)	(24.4%)	(13.4%)
福島市会議員	(2.8%)	(43.5%)	(36.6%)	(17.2%)
新聞	(14.5%)	(65.3%)	(13.0%)	(7.2%)
テレビ	(10.5%)	(59.1%)	(21.8%)	(8.6%)
学者・研究者	(7.1%)	(51.8%)	(18.6%)	(22.5%)

問 15 日本の原子力政策は、今後どの方向に進めるべきだと思いますか。

1. 原子炉をさらに増やす (0.5%) 4. 原子炉を長期的にはすべて廃止する(52.0%)
 2. 今ある原子炉は稼働し、数は増やさない (11.4%) 5. 原子炉を即時全廃する (17.2%)
 3. 原子炉の数は減らすが、全廃はしない (18.9%)

問 16 さまざまなことに対して、以下のような見方があります。あなたはAとBどちらの意見に近いですか。

	Aに近い	えはAに近い どちらかとい	えはBに近い どちらかとい	Bに近い
A. 福島之最優先課題は、 地域振興や風評対策 など、景気回復や経済活性化に努めることだ	(14.7%)	(21.6%)	(30.6%)	(33.0%)
B. 福島之最優先課題は、 除染や健康管理 など、安心して生活できる環境をつくることだ				
A. 原発事故後の対応について、 市は国と協調的な 姿勢で要求すべき	(9.1%)	(18.9%)	(29.1%)	(42.8%)
B. 原発事故後の対応について、 市は国との対決 も辞さない強い姿勢で要求すべき				
A. 原発事故後の対応については、 指導者や専門家 にまかせるべき	(10.4%)	(34.0%)	(33.1%)	(22.5%)
B. 原発事故後の対応については、 指導者や専門家 よりも 市民の意見 を重視すべき				
A. 食品中の残留放射能については、 政府や専門家 の定めた基準値を参照すべき	(16.9%)	(43.2%)	(23.3%)	(16.5%)
B. 食品中の残留放射能については、絶対的な基準値はないので 市民 が判断すべき				
A. 環境がある程度悪化しても、 経済成長と雇用の創出 が最優先されるべき	(9.8%)	(40.8%)	(33.6%)	(15.7%)
B. たとえ経済成長率が低下して失業がある程度増えても、 環境保護 が優先されるべき				
A. 物事を決定する際、 リーダーシップ によるすばやい決定が重要	(23.3%)	(37.5%)	(27.9%)	(11.3%)
B. 物事を決定する際、時間をかけて皆で 話し合い 、納得した結論を導				

問 17 次にあげる社会に対する意見について、あなたはどのように思いますか。

	そう思う	やや そう思う	どちらともい えない	あまり そう思わない	そう 思わない
この複雑な世の中で何をなすべき か知る一番よい方法は、指導者や 専門家に頼ることである	(4.0%)	(20.1%)	(42.2%)	(25.1%)	(8.5%)
大部分の人々は信頼できる	(2.7%)	(23.2%)	(45.1%)	(21.4%)	(7.6%)
今後、日本の経済状況は悪くなっ ていく	(16.1%)	(30.7%)	(37.1%)	(13.8%)	(2.2%)
日本社会の未来には、希望がある	(5.9%)	(18.8%)	(38.1%)	(25.6%)	(11.5%)
経済の成長がなければ、豊かな社 会の実現はありえない	(18.9%)	(37.5%)	(24.9%)	(12.7%)	(6.0%)
人間は、科学技術をコントロール できない	(18.1%)	(25.3%)	(33.8%)	(16.9%)	(5.8%)
福島は他の地域の犠牲となってい る	(34.1%)	(28.6%)	(18.7%)	(13.3%)	(5.3%)
福島は日本の中で孤立している	(19.0%)	(27.3%)	(23.5%)	(20.1%)	(10.1%)

問 18 ここ半年間、以下のようなことはありましたか。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまらない
地元産の食材は使わない	(8.0%)	(18.7%)	(23.0%)	(50.3%)
洗濯物の外干しはしない	(14.9%)	(12.8%)	(15.6%)	(56.7%)
放射線量の低いところに保養に出かけたい と思う	(18.1%)	(18.8%)	(21.7%)	(41.4%)
できることなら避難したいと思う	(13.7%)	(12.1%)	(19.2%)	(55.0%)
放射能の健康影響についての不安が大きい	(18.4%)	(26.5%)	(27.9%)	(27.1%)
放射能に関してどの情報が正しいのかわか らない	(42.3%)	(34.5%)	(14.6%)	(8.6%)
放射能への対処をめぐる家族との認識の ずれを感じる	(7.9%)	(14.7%)	(30.4%)	(46.9%)
放射能への対処をめぐる近所や周囲の人 と認識のずれを感じる	(8.9%)	(22.8%)	(40.4%)	(27.9%)
原発事故の補償をめぐる不公平感を覚え る	(46.0%)	(28.6%)	(16.3%)	(9.1%)
原発事故後、何かと出費が増え、経済的負担 を感じる	(27.6%)	(26.8%)	(27.5%)	(18.1%)
原発事故後、福島に住んでいることでいじめ や差別を受けることに対して不安を感じる	(15.6%)	(25.7%)	(26.2%)	(32.6%)

問 19 福島原発事故後、避難した経験はありますか。

1. はい (17.6%) 2. いいえ (82.4%)

19-1 【問 19 に 1 とお答えの方に】どれくらいの期間、避難しましたか。複数回、避難した場合は、合計の期間を教えてください。

1. 1ヶ月未満 (67.8%) 4. 6ヶ月以上～1年未満 (2.1%)
2. 1ヶ月以上～3ヶ月未満 (9.7%) 5. 1年以上～1年6ヶ月未満 (3.4%)
3. 3ヶ月以上～6ヶ月未満 (5.9%) 6. 1年6ヶ月以上 (11.0%)

問 20 福島原発事故後、放射能の影響を避ける目的で、転居をした経験はありますか。

1. はい (4.6%) 2. いいえ (95.4%)

問 21 ここ半年間、保養（日帰り、週末、長期休暇中など一定期間、放射線量の低い場所でリフレッシュすること）にどれくらいの頻度で出かけていますか。

1. よく出かけている (4.7%) 3. 出かけていない (61.3%)
2. たまに出かけている (34.1%)

問 22 現在のお住まいは、国や自治体による除染はお済みですか。

1. はい (33.1%) 2. いいえ (62.4%) 3. 除染の対象になっていない (4.5%)

問 23 放射能に関して参考にしている情報源は何ですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

1. 役所、保健所、医療機関の情報 (52.4%) 5. 雑誌の情報 (10.0%)
2. テレビの情報 (75.7%) 6. 本の情報 (13.1%)
3. 新聞の情報 (72.4%) 7. 講演会・勉強会の情報 (15.4%)
4. インターネットの情報 (31.9%) 8. 口コミ (23.7%)

問 24 あなたの健康状態は、福島原発事故による放射能の影響をどの程度受けていると思いますか。

	影響がある	少し 影響がある	ほとんど 影響がない	影響がない
現在の身体の健康	(5.0%)	(18.4%)	(41.2%)	(35.0%)
現在の心の健康	(13.8%)	(29.4%)	(32.8%)	(23.8%)
将来の身体の健康	(14.5%)	(35.3%)	(30.8%)	(18.6%)

将来の心の健康	(15.5%)	(34.2%)	(29.4%)	(20.4%)
---------	---------	---------	---------	---------

問 25 この1ヶ月間、どれくらいの頻度で次のことがありましたか。

	いつも	たいてい	ときどき	少しだけ	まったくない
神経過敏に感じた	(3.3%)	(3.6%)	(17.3%)	(26.9%)	(48.9%)
絶望的だと感じた	(3.0%)	(2.2%)	(9.8%)	(22.3%)	(62.8%)
そわそわ、落ち着かなく感じた	(2.0%)	(2.6%)	(10.4%)	(22.4%)	(62.6%)
気分が沈み込んで、何が起ころっても気が晴れないように感じた	(3.7%)	(2.8%)	(14.2%)	(25.4%)	(54.0%)
何をするのも骨折りだと感じた	(3.1%)	(3.6%)	(12.2%)	(27.0%)	(54.0%)
自分は価値のない人間だと感じた	(3.7%)	(2.0%)	(9.3%)	(20.4%)	(64.6%)

問 26 あなたの生活において、何かと助けになってくれる人は何人くらいいらっしゃいますか（同居家族を含む）。

平均 7.7 人

問 27 次にあげる団体や組織とのかかわりはどの程度ですか。

	加入して積極的に参加している	加入はしている	加入していない
政治関係の団体や後援会	(1.5%)	(10.6%)	(87.9%)
地区会・自治会・町内会	(15.0%)	(64.1%)	(20.9%)
労働組合	(2.1%)	(12.3%)	(85.6%)
同業者組合・商店会・商工会	(1.7%)	(7.1%)	(91.2%)
農協・漁協など農林水産業関係の団体	(1.8%)	(8.1%)	(90.0%)
生協などの消費者団体	(1.7%)	(29.5%)	(68.8%)
ボランティア・市民活動団体	(3.6%)	(6.7%)	(89.7%)
趣味・娯楽・スポーツなどの団体	(13.6%)	(17.1%)	(69.3%)
学校のPTA や父母会	(5.2%)	(14.7%)	(80.1%)

問 28 お住まいの地域についてどのようにお考えですか。

	あてはまる	どちらかといえば あてはまる	どちらかといえば あてはまらない	あてはまら ない
私はこの地域が好きである	(40.7%)	(44.1%)	(11.3%)	(4.0%)
この地域は自分のまちだという感じがする	(35.8%)	(42.1%)	(16.5%)	(5.7%)
この地域に住んでいることに誇りを感じる	(21.8%)	(39.0%)	(27.0%)	(12.2%)
困ったことが起きた場合に、近所の人への援助が期待できる	(19.5%)	(43.0%)	(26.1%)	(11.4%)
近所の人とは互いに緊密な関係である	(11.3%)	(37.7%)	(34.3%)	(16.7%)
近所の人とは互いに信頼できる人々である	(12.6%)	(49.7%)	(27.2%)	(10.5%)
近所の人同士の間はうまくいっていない	(3.8%)	(12.9%)	(50.0%)	(33.2%)
近所の人同士で価値観を共有できていない	(8.3%)	(24.1%)	(48.8%)	(18.7%)
原発事故の後、地域のつながりが弱まった	(3.2%)	(8.4%)	(51.1%)	(37.1%)

問 29 あなたがお住まいの地域は、放射能による汚染はどの程度深刻だとお考えですか。

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1. 深刻である (11.1%) | 3. あまり深刻ではない (39.5%) |
| 2. ある程度深刻である (41.3%) | 4. 深刻ではない (8.1%) |

問 30 原発事故後の取り組みについてどの程度、評価しますか。

	評価する	ある程度 評価する	あまり 評価しない	評価しない
国（政府）	(1.0%)	(18.2%)	(38.3%)	(42.5%)
福島県	(2.9%)	(30.3%)	(39.3%)	(27.5%)
福島市	(2.9%)	(29.9%)	(39.7%)	(27.5%)
東京電力	(1.8%)	(10.7%)	(27.0%)	(60.6%)

問 31 国・県・市が取り組むべき放射能対策のうち、今後とくに力を入れるべきだと考えるものを3つまで選び、○をつけてください。

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. 除染の実施 (58.5%) | 4. 風評被害への対応 (43.0%) |
| 2. 放射能に関する正確な情報の発信 (65.1%) | 5. 産業振興と雇用創出 (35.3%) |
| 3. 市民の健康管理 (59.5%) | 6. 低線量地域での住宅の整備 (13.7%) |

問 32 あなたの婚姻状況を教えてください。

1. 既婚（有配偶者）（66.1%） 2. 既婚（離・死別）（10.4%） 3. 未婚（23.4%）

問 33 あなたの世帯は次のうちどれにあたりますか。

1. 一人暮らし（10.9%） 4. 三世代（27.7%）
2. 夫婦のみ（19.3%） 5. その他（3.3%）
3. 夫婦と未婚の子ども（38.8%）

問 34 あなたの世帯には、未成年のお子さん、お孫さん、ごきょうだいがいらっしゃいますか。いらっしゃる場合、そのすべての方の続柄、年齢をご記入ください。

- 未成年の子と同居（25.6%） 未成年の孫と同居（5.0%）
小学生以下の子・孫と同居（20.2%）

問 35 原発事故をきっかけに、離れて暮らすようになった家族はいらっしゃいますか。

1. いる（7.2%）
2. 一時、離れて暮らしていたが、今は一緒に暮らしている（4.4%）
3. いない（88.4%）

問 36 あなたのご実家はどちらですか。

1. 現在の住まいが実家である（35.8%） 5. 相双（1.8%）
2. 県北（45.5%） 6. いわき（1.1%）
3. 県中（3.0%） 7. 会津（2.6%）
4. 県南（0.4%） 8. 福島県外（9.7%）

問 37 あなたの現在のご職業は、次のどれにあてはまりますか。

1. 管理職（7.0%） 6. 生産工程・労務職（12.7%）
2. 専門・技術職（15.1%） 7. 保安職（1.5%）
3. 事務職（13.4%） 8. 農林漁業（3.9%）
4. 販売・営業職（9.3%） 9. 無職（28.4%）
5. サービス職（8.7%）

37-1 あなたは、現在どのような形でお仕事をしていますか。

1. フルタイム雇用者（53.8%） 3. 自営業主、またはその家族従業者（14.5%）
2. パート・アルバイト・契約社員・派遣社員（27.3%） 4. 会社の経営者・役員（4.4%）

問 38 あなたが最後に卒業した学校はどちらですか。

- | | | |
|---------------|------------------------|-------------------|
| 1. 中学校 (7.4%) | 3. 専修学校 (専門課程) (11.7%) | 5. 大学・大学院 (20.3%) |
| 2. 高校 (50.3%) | 4. 高専・短大 (10.3%) | |

問 39 あなた個人の分を含めて、同居している家族全体で去年 1 年間の収入 (世帯年収) (税込み、仕送りなども含む) はどれくらいですか。

- | | |
|----------------------------|------------------------------|
| 1. 200 万円未満 (12.3%) | 4. 600 万円～800 万円未満 (18.0%) |
| 2. 200 万円～400 万円未満 (31.8%) | 5. 800 万円～1,200 万円未満 (12.5%) |
| 3. 400 万円～600 万円未満 (21.3%) | 6. 1,200 万円以上 (4.0%) |

問 40 お宅の現在の家計の状態についてどのようにお考えですか。

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1. ゆとりがある (2.4%) | 4. どちらかといえば苦しい (34.3%) |
| 2. どちらかといえばゆとりがある (9.9%) | 5. かなり苦しい (14.2%) |
| 3. ふつう (39.2%) | |

問 41 原発事故前と比べて、暮らし向きはどうなりましたか。

- | | | |
|-----------------|------------------|-------------------|
| 1. よくなった (0.5%) | 2. かわらない (60.9%) | 3. わるくなった (38.6%) |
|-----------------|------------------|-------------------|

問 42 あなたは生活全体に満足ですか、それとも不満ですか。

- | | |
|---------------------------|--------------------------|
| 1. 満足している (7.3%) | 3. どちらかといえば不満である (40.3%) |
| 2. どちらかといえば満足している (38.8%) | 4. 不満である (13.6%) |

問 43 仮に現在の日本の社会全体を、以下のように 5 つの層に分けるとすれば、あなたご自身は、この中のどれに入ると思いますか。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 上 (0.4%) | 4. 下の上 (25.5%) |
| 2. 中の上 (16.9%) | 5. 下の下 (10.1%) |
| 3. 中の下 (47.1%) | |